

平成26年度 岡山県農林水産総合センター「森林研究所（林業研究室）」

試験研究課題評価票

<事前評価>

- 総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当  
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い  
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番 号	26-事前-1						
課題名	コンテナ苗を用いた低コスト造林技術の確立						
課題の概要	低コスト造林が期待されるコンテナ苗を活用し、その生育状況を調査するとともに侵入植生による被圧状況を調査し下刈り作業の軽減に関する基礎資料を得る。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	1人	3人	1人	0人	0人	4.0
	有効性	0人	2人	3人	0人	0人	3.4
	効率性・妥当性	0人	1人	3人	1人	0人	3.0
	総合評価	2人	1人	2人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1 下刈り回数や季節を選ばない植栽については、低コスト造林に繋がると思われるが、苗の植栽箇所への移動等を考えると、本当に低コスト造林になるのか？トータルを考えた低コスト造林技術の確立として頂きたい。</p> <p>2 今最も必要とされる技術の一つである。是非早急に成果をあげて県民のために有効活用していただきたい。</p> <p>3 社会的な要請や技術開発の必要性は認められるので、研究を推進していただきたい。ただ、目標とする低コスト造林技術の確立という意味では、研究成果がどのように低コスト造林技術確立に結びつくのかを考慮し、研究計画と実験設定を精査しておく必要がある。あるいはどここの部分で結びつくのかがしっかりと説明できるような研究計画と実験設定を心がけていただきたい。そのためには、課題名では、もう少しフォーカスを絞ったものにした方がよいかもかもしれない。</p> <p>4 各関係機関とも連携を図りながら、コンテナ苗の省力・低コストなどについて従来方法と比較しての有用性の立証が必要だと思う。「木を育てる」ことは、すぐ結論の出ないことであり、データの蓄積は年数を要すると思う。コンテナ苗が、植林の省力化・低コスト化につながり、ひいては「伐って使いそして植える」循環になるような展開を引き出してくれるよう期待する。</p> <p>5 低コスト化、労働生産性の向上などの面からタイムリーな課題で、また伐採跡の放棄などが問題になりつつある現状では重要である。タイトルであるが、「低コスト造林技術」のままでは「植栽から伐採までのトータルな施業体系」と誤解される懸念がある。「育林初期施業の低コスト化」等の表現を検討されてはどうか？ なお、コンテナ苗は林野庁が広く推進を奨励しているが、県下の林業家等の意見を広く吸い上げ、将来的に岡山県で実効性のあるきめ細かな施業体系を構築して頂きたい。</p>						

平成26年度 岡山県農林水産総合センター「森林研究所（林業研究室）」

試験研究課題評価票

<事後評価>

- 総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた  
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った  
 1：成果が得られなかった

番 号	26-事後-1						
課題名	シカによる森林被害の実態と対策に関する研究						
課題の概要	森林におけるシカ被害の実態解明やシカの生息状況について調査研究を行うとともに、市町村や関係団体と協力し、防除対策を検討する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	3人	2人	0人	0人	3.6
	有効性（効果）	0人	2人	3人	0人	0人	3.4
	有効性（目的以外の成果）	0人	4人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性（費用対効果）	0人	2人	3人	0人	0人	3.4
	効率性・妥当性（計画）	0人	1人	4人	0人	0人	3.2
	成果の活用・発展性	0人	3人	2人	0人	0人	3.6
	総合評価	0人	2人	3人	0人	0人	3.4
助言・指摘事項等	<p>1 生息状況調査の結果を用い、集めて駆除するという方向に持っていくべきである。防護柵については、更なる安価で有効なものを検討すべきである。</p> <p>2 データの蓄積が重要で今後も是非継続していただきたい。</p> <p>3 限られた予算の範囲内で、適切な手法を用い有用な成果が出ている。生息状況や被害実態では有用なデータを得ているが、対象地域がまさにシカの被害が拡大しつつある地域であることを考えると、どのような立地、植生、あるいは管理状況から被害が広がるのかという被害の進捗と環境条件との関係をみていくことができれば、学術的にも対策の上でも大変有用な成果が得られるものと考えられる。被害対策としては、防除方法だけでなく、シカの個体数制限についても関連する期間と連携を取りながら検討していただきたい。</p> <p>4 本調査のような研究は、大変な労力と手間がかかるにもかかわらず得られる結果は地味で、アピールしにくい部分があると思うが、地道な取り組みに敬意を表する。シカの生息地の拡大は森林被害のみならず、その地域の住民の生活にも支障をきたすようになっており、防護柵の設置は、多大な労力と経費がかかることも防護が進んでいない要因かもしれない。県内の状況が把握できたことは防除を図る上での基礎資料となるため、有効かつ経費や手間の少ない防護方法が開発されることを期待する。またシカ密度の高いところでは、下草植生が食害され、被覆度の貧弱な山地もみられ、土砂災害等も危惧される。防護すれば防護していない地域に移動して拡大することも考えられ、各関連機関が連携しての、抜本的な対策の検討も急務である。</p> <p>5 棲息、被害状況調査については、県境（おもに兵庫県境）地域から徐々に県全体に被害が広がりつつある状況が確認できている。これまで県下では、このような情報が蓄積されていなかったのが重要な情報であり、有効に活用されたい。侵入防止資材については、すぐに実用可能な成果には到達しているとは言い難いが、シカの密度と、それに対応した対策の種類（防護策の種類や、捕獲とのバランス）のマッチングを今後検討されたい。</p>						

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた  
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った  
 1：成果が得られなかった

番 号	26-事後-2						
課題名	倒木接種による省力的きのこ栽培方法の研究						
課題の概要	林内の倒木等を利用し、玉切り、運搬、伏せ込み等の作業を行わない省力的な栽培方法（倒木接種法）を確立する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	3人	2人	0人	0人	3.6
	有効性（効果）	1人	2人	2人	0人	0人	3.8
	有効性（目的以外の成果）	2人	3人	0人	0人	0人	4.4
	効率性・妥当性（費用対効果）	1人	2人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性（計画）	1人	人	4人	0人	0人	3.4
	成果の活用・発展性	2人	2人	1人	0人	0人	4.2
	総合評価	0人	4人	1人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1 チェーンソーでの切削において、チェーンオイルを植物性のものを用い、比較すべきだと思われる。</p> <p>2 シイタケ菌のカシノナガキクイムシの侵入阻害効果が確認できたことは興味深い。今後の発展が期待される。</p> <p>3 日本の林業の状況に対応した方法の開発に取り組み、その目的を達成できるような成果を出されている。また、学術的にも大変興味深い成果がみられる。特に、カシノナガキクイムシの穿入とシイタケ菌の増殖の関係は大変興味深く、学術的にも応用的にも極めて有用な成果であるので、今後調査研究を精力的に進められることを期待する。</p> <p>4 独創性と実用性があり、すでにマスコミ等の掲載や一般からも問い合わせがあるなど、今後この手法が活用されて、滞っている森林再生につながることを期待する。倒木接種きのこ栽培方を、広くアピールしてもいいのではないか。当初の目的以外に成果が得られた、シイタケ菌によるカシノナガキクイムシの防除効果については、薬剤を使わない防除効果が期待でき、しかもシイタケ生産と若い森林の再生をも見込まれる。ナラ枯れ防止に効果が発揮できるよう、今後も継続した研究が望まれる。</p> <p>5 課題の基本部分（きのこの生産）については、一定の生産が見込めること、コスト・労力的にも実効性があることが確認されており、目標を達成したと言える。ただしきのこのサイズの問題など、商品化に際しての注意点を整理されたい。また、ナラ枯れの被害木へのシイタケ菌等の接種については、新たな発展性が見込めるので引き続き検討されたい。</p>						